



2025年3月12日

## 「MAZDA CX-80」が安全性能で最高評価を獲得 --2024年度JNCAP総合評価で「自動車安全性能2024ファイブスター賞」を受賞--

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、昨年国内で発売した3列シートクロスオーバーSUV「MAZDA CX-80(マツダ・シーエックスエイティ)」が、2024年度JNCAP総合評価\*1において、最高となる「自動車安全性能2024ファイブスター賞」を受賞したことを、本日発表しました。



「MAZDA CX-80 PHEV Premium Modern」

2024年度JNCAP総合評価\*1の内訳として、「MAZDA CX-80」は「予防安全性能」および「衝突安全性能」の項目でAランク、「事故自動緊急通報装置」の項目で満点として評価されています。

マツダは、2040年を目途に、自社の新車を原因とする死亡事故をゼロ<sup>2</sup>にすることを目標として、ドライバーが安全運転できる状態を最大限に確保し、事故リスクの発生自体を抑制する安全思想「MAZDA PROACTIVE SAFETY(マツダ・プロアクティブ・セーフティ)」にもとづいた技術開発に取り組んでいます。

「MAZDA CX-80」は、圧倒的な運転体験と上質で心豊かな移動体験を両立し、高い環境性能と安心安全のカーライフをお届けすることを目指した、マツダの国内市場におけるフラッグシップモデルです。

安全性能については、「MAZDA PROACTIVE SAFETY」をもとに、お客さまが安心して体験や行動の幅を広げることをサポートする狙いで開発されました。高度運転支援技術を含む、「MAZDA CX-80」に採用されている主要な安全技術は以下のとおりです。

### ドライバー異常時対応システム(DEA)<sup>\*3</sup>

ドライバーの異常時に事故被害を軽減するための機能を採用。ドライバー状態検知技術、ドライバー異常時退避技術といった2つのコア技術とひと中心の設計思想により人に寄り添い、「見守る」「助ける」技術により、ドライバーに安全・安心感を提供。

### クルージング&トラフィック・サポート(CTS)緊急停止支援機能付<sup>\*4</sup>

ドライバーの前方不注意や運転不適状態に対して、ドライバーに危険を気づかせ安全運転をサポートすることを目的としたリスク低減機能が進化。

### スマート・ブレーキ・サポート(SBS)<sup>\*5</sup>

対向車が車線逸脱し、自車と正面衝突する可能性があるかと判断すると、早めにブレーキ操作に介入し、事前に減速することで衝突被害の軽減をサポート。また、交差点を曲がった先の道路を横断している歩行者や自転車と衝突する可能性がある場合もブレーキを作動、事故被害軽減をアシスト。

### 後部ボディ構造

リアサイドフレームを軸圧縮変形させることで、CX-8 比で2倍となる後面衝突時のエネルギー吸収量を実現。後席乗員の安全性向上に寄与。

### リアシートアラート

お子さまや荷物を後席に置いたまま降車することのないよう、ドライバーに注意喚起を促す機能。イグニッションをオフにした場合、リアドアを開けることなく、車室内音とメーター内のテキスト表示により告知。

マツダは、2030年に向け、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る喜び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる喜び」をお届けしていくことを目指してまいります。

\*1: 国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)が、安全な自動車の普及を促進する目的で、1995年度より公表している自動車の安全性能評価。「予防安全性能」、「衝突安全性能」、「事故自動緊急通報装置」の項目で評価される。

\*2: 自動車技術で対策可能なものについて。

\*3: 設定はグレードごとに異なります。DEAは、ドライバー・モニタリングと連動し、ドライバーの異常を検知すると音と表示による警告でドライバーに運転復帰を促します。ドライバーが運転に復帰できない場合には、ハザード点滅、ブレーキランプ点滅とホーン吹鳴で車外に異常発生を報知しながら、高速道路/自動車専用道路では可能な限り路肩に寄せながら減速停止、一般道では同一車線内で減速停止することにより、事故の回避・被害低減を支援します。<sup>注1)</sup>停止後は、ドア解錠やヘルプネット自動接続による救命要請も行い、早期のドライバー救護・救命に寄与します。<sup>注2)</sup>DEAシステムには作動条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。DEAは、万一の際に速やかに減速・停止を行うことで、事故の回避や被害の軽減を図るものであり、その機能には限界があり、その効果はさまざまな条件により変わります。システムが作動しても、衝突や路外逸脱を完全に防止できるものではありません。運転者には安全運転をする義務があり、DEA作動に伴う責任は運転者にあります。機能を過信せず安全運転を心掛けてください。

注1) 路肩に寄せる機能の作動には「ナビSDカード」が必要です。

注2) 自動接続による救命要請(マツダエマージェンシーコール)を作動させるためには、コネクティッドサービスの契約が必要になります。

\*4: 設定はグレードごとに異なります。機能には限界があり、その効果はさまざまな条件により変わります。システムが作動しても、衝突や路外逸脱を完全に防止できるものではありません。運転者には安全運転をする義務があり、「CTS緊急停止支援機能付」作動に伴う責任は運転者にあります。機能を過信せず安全運転を心掛けてください。

\*5: 歩行者については日中および夜間、自転車は日中のみ検知可能。

## ■関連サイト

独立行政法人 自動車事故対策機構(NASVA)

<https://www.nasva.go.jp/mamoru/about/about.html>

マツダオフィシャルウェブサイト

MAZDA CX-80

<https://www.mazda.co.jp/cars/cx-80/>

安全の主演はドライバー

<https://www.mazda.com/ja/innovation/monozukuri/technology/safety/>

“健康とクルマはつながっている？マツダと弘前大学が挑戦する、人に寄り添ったクルマがつくる  
ウェルビーイングな社会”

<https://www.mazda.com/ja/mazda-mirai-base/articles/20250219-wellbeing-hirosaki/>

“乗れば乗るほど元気になる？脳科学や AI でひとの本質を研究するマツダのクルマづくりと  
ウェルビーイング”

<https://www.mazda.com/ja/mazda-mirai-base/articles/20250214-wellbeing-car/>

以上